

# 和知駅再生プロジェクト —地方におけるこれからの「駅」の役割—

# Wachi Station Revival Project —Roles of Local Stations from now on—

正会員 ○清山陽平\* 正会員 池永諒\*  
正会員 久保田匠慶\* 正会員 山口直人\*  
正会員 神吉紀世子\*\*

○ KIYOYAMA Yohei\* Ikenaga Makoto\*  
KUBOTA Takayoshi\* YAMAGUCHI Naoto\*  
KANKI Kiyoko\*\*

\* 京都大学大学院工学研究科 修士課程 (工学)  
\*\* 京都大学大学院工学研究科 教授・博士 (工学)

\* Graduate Student, Graduate School of Engineering, Kyoto University  
\*\* Professor, Graduate School of Engineering, Kyoto University

## 1. はじめに

少子高齢化の進行、自家用車や高速道路網などの発達にと  
もない、地方を中心として鉄道の利用は一般に減少している。  
人々の集い憩う場所、まちから旅立ちまちに迎える場所。廃  
線をふれない路線も多く存在する現在、単に「電車に乗るた  
めの場所」に留まらない地方における駅という存在の意味を  
もう一度見直すべき契機を迎えているとも言えるだろう。

### 2-1. 活動の発端

本活動は2015年4月、京都大学神吉研究室 (以降「研究室」  
と表記) が京都府建設交通部交通政策課 (以降「京都府」と表記)  
から「駅再生プロジェクト」への協力依頼を受けたことから  
発する。当プロジェクトは、昨今公共交通利用者数が減少  
している中で、「駅」の持つ人の交流やにぎわいを高める可  
能性を有した場所・空間性に着目し、とりわけ地方路線にお  
ける駅舎および駅周辺の課題をハード・ソフト両面で検討し  
改善することで、駅を通じた交流人口の拡大を目指すもの  
である。このプロジェクトに対して当時の修士一回生および研  
究生の合計五名が中心となり取り組むこととした。

### 2-2. 対象駅とそのうち3駅での活動概要

人口減少・少子高齢化の著しい地域の拠点となる駅として、  
JR西日本山陰本線 和知駅、同 山家駅、JR西日本関西本線  
笠置駅、同 大河原駅 の4駅の再生案スタディを京都府から  
依頼された。このうち山家駅においてはシンプルな駅舎やまっ  
すぐな線路など駅舎本来の魅力を発見してもらうための取り  
組みや、既存民家を利用し駅を眺めることのできる待合室を  
整備するなど、笠置駅においては駅舎の改修と駅への車ア  
クセス向上など、大河原駅においてはバス用ロータリーの造成、  
機能を重視した駅舎への減築などを提案した。本稿では以下、  
上記4駅の中でもとりわけ進展が見られる和知駅での活動を  
紹介する。

## 3. 和知駅における活動紹介

### 3-1. 和知駅について

和知駅は京都府船井郡丹波町 (旧和知町) に位置し、同町内に4駅あるJRの駅  
の中で最も利用者の多い駅である (1日に約180人ほど)。現在の駅前は活気ある雰  
囲気とは言い難いが、和知駅前活性化委員会など地元の団体が、駅員として働いたり  
駅内の喫茶店を運営するなど献身的に駅とその周辺の施設の快適性を維持している。また  
隔週で金曜日に駅前に出店が並ぶ「金曜宵の市」や、毎年8月末に多くの出店と櫓が  
駅前広場に展開する「和知ふるさと祭」なども催される。

### 3-2. 学生による改修案の提案

2015年8月、京都府・研究室・地元の方々が集う「和知駅意見交換会」にて、学生から  
の改修案を提示した。現状の駅舎の観察またいくつかの地元住民の意見を基に待合機  
能の向上を共通のテーマとした上で、待合室の拡張、既存ウッドデッキの増設、地元木



山家駅



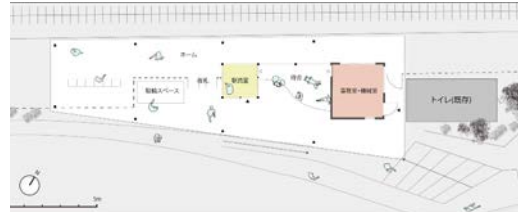
大河原駅



大河原駅改修案 模型



笠置駅



大河原駅改修案 プラン



和知駅



和知駅敷地模型



案①模型：駅正面側からデッキを見る



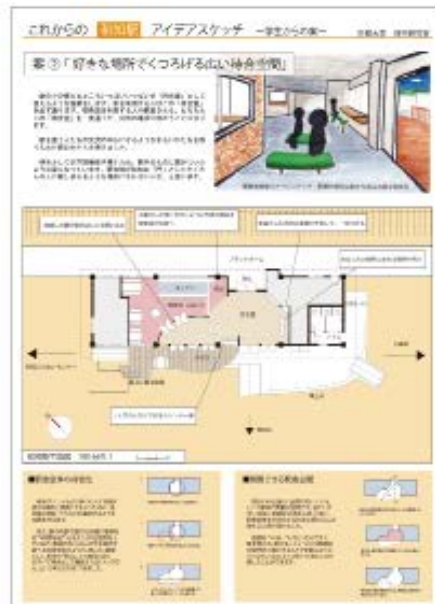
案②模型：模型全体を見下す



案③模型：待合室周辺



学生案① 拡張したウッドデッキを複合的な待合の場とする案



学生案② 駅舎全体を空調操作の効く待合空間とする案



学生案③ 24時間利用可能な待合室を駅舎に挿入する案

所在地：京都府船井郡京丹波町本庄馬場 19-1  
 主な用途：駅（喫茶店を含む）および駅前広場  
 敷地面積：およそ 1200.00m<sup>2</sup>  
 建築面積：165.00m<sup>2</sup>  
 延床面積：165.00m<sup>2</sup>  
 キーワード：地方駅・地元との関係性・和知  
 活動体制：京都府・京都大学神吉研究室・京丹波町・和知駅前活性化委員会・和知の駅を守る会・現地地元住民の方々

Location : 19-1, Honzyo-Baba, Kyotanba-cho, Funai-gun, Kyoto  
 Main Use : Station (including Cafe), Station square  
 Site Area : 1200.00m<sup>2</sup>  
 Building Floor Area : 165.00m<sup>2</sup>  
 Total Floor Area : 165.00m<sup>2</sup>  
 Keywords : Local Station, Relation with Locals, Wachi  
 Activity System : Kyoto Prefecture, Kyoto University Shigenaka Research Institute, Kyotanba Town, Wachi Station Activation Committee, Wachi Station Guardians Association, Local Residents

材の使用などを掲げる異なる3案を挙げた。これらの案は実際の改修を見込んで作成したものではなく、地元の方たちに駅に対する要望や意見を出してもらったため、叩き台的に扱われることを目的するものであった。

### 3-3「これからの和知駅アイデアスケッチ」

2015年10月から京都府が行った駅に関するアンケートと合わせて、研究室では改修案3案を駅内喫茶店に掲示し今後の駅舎改修についての意見を和知駅の平面図に自由に記述してもらう「これからの和知駅アイデアスケッチ」を実施した。広報に際しては町内で高視聴率を誇る京丹波町のローカルTVに協力いただき、同町出身の筆者も出演し地元住民へ意見を求めた結果、アンケート328件、スケッチ33件を得た。スケッチで採取した意見は駅舎の場所ごとにまとめ整理し、12月の意見交換会で報告した。これらはアンケート結果と合わせ今後の駅舎改修に活かされる予定である。

### 3-4 はるいろさくらまつりコラボ企画「和知カフェ」の実施

「はるいろさくらまつり」は京丹波町和知地区で4月に行われるアートを中心としたイベントであり、過去2年間は1000人規模の集客を記録した。京丹波町と協議の結果、今年で3年目となるこのイベントに合わせ、1時間に一本ほどの間隔で運行する電車を利用しまつりを訪れる人が待ち時間を過ごすための青空カフェのようなものを企画することとした。駅内喫茶店「山ゆり」、駅前で「金曜宵の市」を開催する和知駅前活性化委員会の協力で軽飲食を販売してもらい、また設営等は京丹波町和知支所に、木製ベンチは町内にある京都府林業大学校に協力いただいた。学生からは地元で入手した竹とケーブルドラムにより柱を立て、既存駅舎とテントも利用しながらテグスを張り、そこに布を結び付けることで直射日光を遮れる程度の簡易的な仮設工作物を設けた。布が風にたなびきながら浮かんでいる下に気持ちの良い憩いの空間が広がり、二日間だけの企画であったが外からのお客さんを始め近所に住む子供やお年寄りにも多く集まっていた。

### 4. 今後の活動について

現地での活動や交流を通して、昨年度一年間で地元住民と非常に強い関係性を築くことができた。そのような中で28年度以降はアンケートとスケッチにて集約した意見を基に駅舎の改修案について、今回の「和知カフェ」のような駅舎周辺環境の利活用も含めて取りまとめ実現していくとともに、駅からまち全体をどのようにデザインしていくか引き続き取り組んでいく。

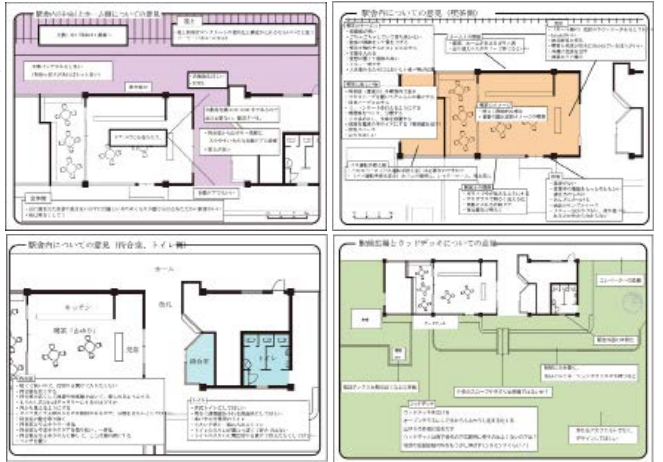


駅内喫茶「山ゆり」にて学生案を展示

町内ローカルTVにて呼びかけ



平面図でハード面の意見を聞く



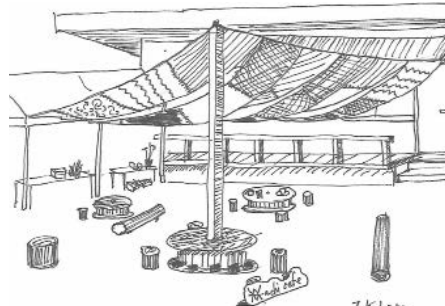
寄せられた意見を駅舎構内の場所ごとに整理



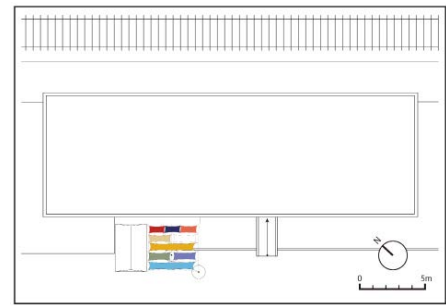
柱用の竹を確保

屋根のディテール

柱基礎のディテール



事前に描いた完成イメージスケッチ



和知カフェ配置図



設営風景



多くの人が布の屋根の下で過ごす



完成した仮設工作物を南東側から眺める